

令和6年度の八尾市の指定文化財

○八尾市指定文化財（指定日 令和7年3月7日）

名 称	木造 南無仏太子像	種別	彫刻
所 有 者	盛光寺	所在地	八尾市老原5丁目
員 数	1 軀	時 代	14 世紀
解 説	1. 盛光寺 木造 南無仏太子像 聖徳太子が亡くなってまもなく太子に対する信仰が起こり、生涯の奇跡的な物語をもとに絵画や彫刻がつくられました。そのひとつに太子が二歳の時に東に向かって「南無仏」と唱えて合掌したとされる姿を表現したのが南無仏太子像で、聖徳太子二歳像ともよばれています。 赤い長袴をはき、頭部が大きく、体はふっくらとしていて乳幼児の肉付きのよさを強く意識していることがうかがえます。南無仏太子像は、二歳児の身長に相应しく像高 70 cm 前後の作例が多いですが、本像は約 22 cm と大変小さく、全体に四角張った印象と衣の線を誇張するなど南北朝時代の彫像の特徴がみられます。 2. 指定の意義 像高 22.2 cm と中世にさかのぼる聖徳太子 2 歳像としては最も小さいですが、前頭部のくぼみ、ふくよかな肉付き、ふくらんだ袴など、幼児性を意識した写実的表現に優れています。蘇我氏と物部氏の戦いの舞台となり太子信仰の一翼を担う八尾市の歴史を語るうえで貴重な彫刻です。		



木造 南無仏太子像
（左：正面 右：背面）

□大阪府指定文化財（指定日 令和7年3月24日）

名 称	木造 聖徳太子及二王子立像	種別	彫刻
所 有 者	大聖勝軍寺	所在地	八尾市太子堂3丁目
員 数	3 軀	時 代	12～13 世紀
解 説	1. 大聖勝軍寺 木造 聖徳太子及二王子立像 大聖勝軍寺は、太子堂あるいは下ノ太子とも呼ばれ、大阪府内において上ノ太子叡福寺、中ノ太子野中寺と並び称される太子ゆかりの寺院です。縁起では太子が物部守屋との戦いで窮地に陥った時、棕樹に隠れて難を逃れ、その後、毘沙門天に祈願し四天王を祀って勝利を得たので建立されたと伝えています。 聖徳太子像は、経箱を持つ殖栗王と如意をもつ山背大兄王の像を伴い三尊形式となっています。簡潔な構造となだらかな衣文の表現や落ち着きのある姿勢など平安時代後期の彫刻の特徴がみられますが、頭部が大きく腰の位置が低いプロポーションや骨格を意識した肉取りは鎌倉時代の特色を示しています。 美豆羅を結って柄香炉を執る太子像は、16歳の姿を表した孝養像とされていますが、両手先と持物が後補であることから当初の姿であるかは明らかではありません。しかし、当初の像形を引き継いだものとすれば、現存する立像形式の教養像としては最古例のひとつに位置づけられます。 2. 指定の意義 二王子を伴う孝養像の立像は珍しく、着衣や衣文の表現は誇張がなく、自然な描写を見せ、品のある像となっており、彫刻史上または中河内の太子信仰の歴史を探るうえで極めて貴重な像です。		



木造 聖徳太子及二王子立像（左：殖栗王 右：山背大兄王）